

【随 筆】

今年もタンチョウの バンディング調査です(その2)

住 吉 尚
(釧路支部)

なぜか昨年までは根室管内での捕獲数が大変少ないと言う状態が続いていました。さて今年はと言うことで、7月8日は風蓮湖です。レンタカーにカヌーを積んで、サー出発です。最初のターゲットは走古丹です。最初に偵察隊が見に行きます。港側からは見えないとの連絡が。次は私たちが砂丘側から見に行きます。タンチョウがいました。見つけたので早速作戦会議です。ヤブの中なのでカヌーの出番はなし。「本隊は陸側から湿原に逃げ込まないよう囲う。私たちは土盛りの上から指示を出し、タイミングを計って、土盛りを降りてヒナを囲う」と。私が土盛りの上から見るとヒナは行って欲しくないヨシ原湿原へどんどん移動しています。「足場の良い所を歩いている人は大急ぎで湖畔の水際まで行って！」私が叫びます。何とか間に合いました。「湖畔の少しこんもりしたヤブの中にヒナがいるので、全員でそこを囲んで！」と叫び、我々も包囲網に加わります。こうして本日1羽目を捕獲しました。次は内陸方面に偵察隊を出しましたが、「ヒナ連れ発見できず」との報告が。もう1カ所、ヒナがいるとの事前情報がある風蓮湖の湖岸へ行ってみると、確かにヒナ連れが見えましたが、すぐに見えなくなってしまいました。ここで昼食を食べながら待ちましたが好転せず、さらに別の湖岸での情報がある所へ。行って見るとヒナ連れがいました。湖の中に中洲のように見える茶色い帯が見え、そこに親子がいます。まずカヌーを用意します。その間に私たちは陸側から静かに湖畔に近づき、陸に戻れないように湖畔に並びます。こうしておいて、カヌーで捕まえようと作戦を開始しました。陸側は上手く展開ができました。無線が「この家族の北側にもう1家族がいる！」と。私は「他は無視して、目の前のターゲットに集中してください！」と叫びます。「ヒナが動く方向にシフトも動くように」と指示。さあー、カヌー班の出番です。カヌーが行きます。茶色い帯までカヌーが行きますが、人は降りません。カヌーが茶色い帯の中へと入っていきます。オヤ！私が中洲と思っていたのはアマモの帯のようです。でもどうして緑



風蓮湖ではカヌーでの捕獲です

ではなく茶色なのかは不明でした。アマモの中ではヒナも歩きにくそうにしましたが、カヌーはもっと大変です。それでも人間が体力勝負に勝って捕獲に成功です。この間、陸上班はカヌーに向かって勝手なことを言いますが、カヌーでヒナをつかむのは意外に難しいのです。よほど操船が上手い人がいないと簡単には行きません。ここでは何年ぶりでしょうか？私がバンディング調査に参加して2羽目のヒナを捕獲したのがこの場所でした。それはもう10年以上も前のことだったと思います。この時はヒナに逃げられて作戦終了となった後、ヤブに隠れていたヒナを私が見つけて捕獲しました。でも今回は久しぶりのカヌー勝負で、しかもアマモの中でヒナに追いつき捕獲できたので、大満足な1日でした。カヌーを使っている作戦は準備などに時間がかかるので、午前、午後にそれぞれ1回しかできません。

次は7月9日、十勝南部の「道の駅忠類」が集合場所でした。そこからあまり遠くない農家にヒナ連れが出て来るとか。当初タンチョウはいませんでした。農家にツルが来たら捕獲作業に入ることの許可をもらいながら、周辺を見て歩きました。しばらく待つとヒナ連れが出てきたので、「作戦通りに」と思いましたが、思いの他タンチョウの警戒心が強く、逃げられてしまいました。この日は大変暑い日で、メンバーのひとりが熱中症になりました。ヤブに入るので長袖に胴付き長靴ですから、体温がこもりやすく注意が必要です。そして今年のように35℃を越すような気温の日などは、捕獲作業そのものができないでしょうね。北へ戻りながらタンチョウを探しましたがなかなか見つけれられません。長節まで戻り、小川の搜索をすることに。川の右岸側には農道があります。そちらに車を配置して、私たちは左岸側のヤブからタンチョウを追い出す役目です。少し行くと、親鳥2羽が私たちのすぐ近くのヤブから飛び立ちました。近くにヒナがいるものとヤブを搜索しましたが、手ごたえ

がありません。ダメかなー！と思った時でした。対岸の待機班から「道路と川の間のヤブの中で足音が聞こえる！」そして「ヒナの頭を確認した！」と。我々もヤブを降りて川の中に。ヒナは対岸のヤブの中ですから、川の中からこのヤブを囲うことに。上流側にひとりが立ち、他のメンバーはヤブを下流側から押していきます。でも見あたりません。私はさらに上流側に3人の待機班を置いて、「そこまで押していなければ諦めましょう！」と呼びかけ私も搜索に。すると先ほどひとりで待機していたメンバーから「3mほど上流側に隠れていたヒナを搜索メンバーが発見」と、無事捕獲できました。この日はもう一度忠類まで戻って見ましたが捕獲には至りませんでした。十勝は暑いですね。疲れたよー！

次は12日でした。この日は根室方面、湖沼周りがメインでしたから、またまたカヌーを積んで出発です。姉別、厚床方面を探しましたがヒナ連れが見えず、温根沼まで行きました。すると温根沼大橋の東側にヒナ連れが見えました。ヒナは橋のすぐ近くまで来ていたので、奥側さえ押さえれば上手くいきそうです。早速カヌーを下ろし、カヌー班は待機。私は橋の近くから指令を出します。陸上を押さえる班が展開を済ませる間もなく、ヒナは湖の中へと泳ぎ出しました。後はカヌーです。陸上では、右だ！左だ！勝手に撒を飛ばしますが、カヌーは思ったようには動きません。それでもヒナは隠れるところがないので安心して捕獲作業を眺めています。こうして今日の1羽目です。昼食後はまた風蓮湖岸です。行って見ると直ぐ近くの湖岸にヒナ連れが見えました。このヒナ連れは我々が動き出す前に川を泳ぎ渡って対岸のヨシ原に。急げ！カヌーを下ろします。早速準備ができたメンバーから順にカヌーで対岸に渡ります。2組が渡ったところで先行者が「湖岸で追いついた！ヒナは沖に向かって泳ぎ出した！」と。それでは！とカヌー捕獲班の出動になり、対岸は既に渡った4人に任せ、こちら側は我々が固めながら、カヌー班が捕獲するのをのんびり眺めています。こうして、今年は、カヌーで3羽を捕獲するということになりました。こんなにカヌーが活躍したのは私が参加するようになって初のことです。

15日も根室方面でした。中春別で牧草地の遠くにヒナ連れが見えるとの報告が。まず牧草地の持ち主に立ち入りの許可をもらいに行き、ついでに農家から続く農道からヒナ連れが見えないか？と見てみると、なんとそのヒナ連れは我々が入って行った農道のすぐ脇にいました。それっ！と、若い人達に走ってもらいます。こんな時のために車に乗る時には必ずドア側若くて走れる人、

私のような年寄りには奥に座ります。これが功を奏しました。200m、300m、もっと行きましたか、回り込んだメンバーに追われるように走っていたヒナを挟むように走っていた若者が追い付きます。この時ヒナと一緒に走っていた親鳥が翼を広げてて体を低くしました。こうして翼の下にヒナを隠そうとします。するとヒナはこの親鳥の翼の下で座り込みました。これでヒナを捕獲できたのですが、このように親鳥が外敵からヒナを守るために翼を広げ、その下にヒナを隠すと言う行動は全員初めて目にする行動でした。これはこの親鳥も換羽中で飛べないと言う事情もあつてのことですが、親子ともども人に囲まれて最後の手段だったのでしょね。さて次は標津川の北側の農家です。事前に電話で「今日行く、ヒナがいたら速攻で勝負したい！」と伝えてあります。いきました。早速作戦開始です。標津川の築堤で待ち受ける班と、我々追い出し班に分かれて動き出しました。パンカー周りのヤブを搜索しながら築堤に押していきます。もうすぐ築堤と言う所で、私のすぐ前のヤブの中に座っているヒナを見つけたので、私は「いた！」と叫びます。するとヒナは立ち上がり走り出しました。でもそちらにもメンバーがいました。まもなく「捕獲！」と誰かの叫び声。ヤブの中に次々人が飛び込みます。それを見ながら私も行きますが、歳ですね！もう走ることもありません。「つかんだのだから急がなくても！」との思いが先に立ちます。でも本日の2羽目ですから上々というべきでしょうね。

翌16日はまた標茶町内です。今日も数台の車に分乗してまずは搜索です。釧路川築堤近くでヒナを見つけ囲いましたが、もう囲いの中にはいませんでした。さて次はと、走っていると無線が入りました。「磯分内の町はずれで見つけた、直ぐ来い！」急いで目的地へ。指示されるままヤブを囲いましたが、タンチョウはいません。あきらめて別を探すことに。するとすぐのことです。「先ほどのヤブの道路反対側の草地にヒナ連れがいる」と無線が。これは上手く囲うことができ、無事捕獲成功です。午後は釧路川の下流方向でした。築堤と川の間にある広い草地にヒナ連れを発見しました。私たちが上流側から、後から無線で呼んだ部隊は下流側からこの家族を囲いましたが、ヒナは大きく羽ばたきながら追っ手を振り切り、築堤を越えて深いヤブへと消えて行きました。もうだめか！と思っていると、ヤブを越えて追跡していたメンバーから「ヒナ発見！皆来い！」との無線が。我々もヤブを越え大きな肉牛牧場の中へ。牧場の許可を得て、ヒナ包囲作戦の開始です。ヒナが大きく、翼を広げて走る

ので深いヤブではかえって目立ち、しかも草の抵抗もあり、遅くなります。こうして本日2羽目を何とか捕獲しました。こうして捕獲作業最終日の19日になりました。この日は足寄町仙美里ダムです。私たちは陸上からの追い出し隊です。ダム湖にはカヌーが待機しています。私も遠くにヒナをちらりと見ましたが、深いヨシ原に阻まれ見失いました。「撤退せよ！」との無線ですが、ヨシ原の中で私は苦戦です。古い枯れたヨシが横たわっています。これの上まで足が上がりません。やっと林道にたどり着いたときにはヘロヘロになるほど疲れしました。でも直ぐに今度は先ほどの対岸に当たる側の草やぶの搜索でした。今日は2戦して2敗。完全にダウンと言う状態でした。物も言いたくないと言う状態でしたが、この湿原で美しい青い花を見ました。これはミズアオイと言う植物です。私が普段目にしていない海岸の湿原では見たことがありませんが、日本の湿原では普通の植物と一緒にオモダカなども見られました。これらは水田の雑草として普通にあるものです。どうやら普段私が見ている湿原の方が変わっているのですね。



疲れ果てた仙美里ダムで見たミズアオイ

さて捕獲作業が終わり、8月になりました。ヒナ達は どうしているかと見に行きました。走古丹でヒナを見て安心しましたが、この時砂丘側の道路でショウドウツバメの群れが路上にいるのに出会いました。どうやら今年生まれの若鳥に様に見えました。ただ休んでいるように見えてましたが、何をしていたのでしょうか。そして干潟にはもうシギ類が飛来していました。鳥たちにとってはもう秋なのでしょうか。8月19日土曜日、白糠町の公民館でトウキョウトガリネズミの展示があるとのニュースが。それ！行って見ました。東京と名が付いていますが北海道だけに住んでいると言う哺乳類で最小の動物です。珍しい動物なので混むと観覧が大変かな？なんて思って

開館と同時に着くように出かけましたが、見に来たの私たち夫婦ともう1組だけでした。30分ほど待って、出てきたところをパチリと写したのがこの写真です。それにしてもこんな珍しい動物を見る機会などなかなかないと言うのに、もったいないと思いました。



道路上で休むショウドウツバメの群れ



干潟で見たキアシシギ



とても小さなトウキョウトガリネズミ